

「生活作文の書き方教室」掲載作文使用条件

① 「生活作文の書き方教室」（以下「本サイト」）掲載作文の著作権は放棄しておりません。使用条件に同意した場合にのみ使用できます。

② 本サイトの作文は、学校（小学校および中学校）提出に限りその使用を認めます。

③ 本サイトの作文を使用し、何らかの問題が発生しても、本サイトおよび管理人は一切の責任を負わないものとし、すべて使用者の自己責任で対応するものとします。

④ 本サイトおよび作文に関しては、苦情とうは一切受け付けません。

⑤ 何かしらの問題が発生する可能性がある場合、判断した場合、使用は中止してください。

⑥ 本サイトの作文を他サイトへ転載することは厳禁です。

⑦ 本サイト掲載作文への直リンクは厳禁です。

以上

間、「落ちてっ二」と、叫んでいました。
 去年のお祭りのあと、もつとたくさんの景
 品を落とせるようになりたいたいと思いました。
 インターネットで、射的のコツを調べました。
 「射的は欲しいものを狙ってはいけない。取
 れるものを狙え」とか、「軽いものを狙え」
 とか、「鉄砲の大きな音にだまされるな」と
 か、射的の裏ワザを収集しました。
 「これだけ研究したのだから、今年は三つは
 固い」と、根拠はないけど、自信たっぷりで、
 射的の露店をめざし歩いていました。
 照明が明るく、たくさんの人が群がってい
 る露店がありました。そこが射的のお店です。
 はやる気持ちを抑えるように深呼吸をして、
 今まで研究したことを一つ一つ復唱しました。
 露店の前に着くと、景品を一通り見渡しま
 した。ポケットから二百円を取り出し、おじ
 さんからコルクをもらいました。
 コルクを銃の先に詰めました。そして右手
 を伸ばし、景品に狙いを定め、引き金を引き

ました。「ガシヤ」と大きな音がしました。景品にコルクが当たりました。でも景品はびくともしません。射的の鉄砲は大きな音がするので、すごい力がある感じがします。しかし、音だけです。弾は軽いコルクなので、威力がありませぬ。弾が当たっても倒れない景品は、何度挑戦してもだめなのです。わたしはほかの景品に狙いを変えました。「今度こそっ！」と、念じながら引き金を引きました。すると、見事に景品が棚から落ちて落とせる」と判断しました。ガシヤ、ガシヤとコルクの弾が発射されるたびに、景品がぽとりと棚から落ちました。最後の一発というときに、周りざわついているのを感じました。視線がわたしに注がれている、そんな気がしました。子どもわたしが続けて景品を落としたので、注目されていたのです。「それならば、勉強したワザを見せてあげましょう」と、確実に落とせる軽い景品めがけ

て引き金を引きました。これまた棚から落ち
ました。五発中四発命中です。わたしの腕前
に感心したのか、父が「もう一度やってみる
か」と二百円くれました。同じ調子で引き金
を引きました。コルク弾が命中し、景品が棚
から落ちるたびに小さな歓声が起こります。
最後の一発、取れないのを承知でぬいぐる
みを狙いました。コルクの弾が当たっても、
びくりともしません。大きなため息が流れた
あと、拍手が起こりました。子どものわたし
が、八個も景品を取ったことへの拍手でした。
大人からの拍手に誇らしい気持ちになりま
した。一年間、この日のために射的を研究し
たかいがあつたというものです。
帰り道、ビニールの袋に入れてもらった景
品を誇らしげに父に見せると、「その情熱の
半分も勉強に向けたらどうなんだ」と、あき
れ顔で言われました。その言葉はわたしの耳
には入りませんでした。「来年はパーフェク
トだ！」、そう決心して、家路につきました。